



NO.

いちょう

発行所

待乳山 本龍院

〒111 東京都台東区浅草7-4-1

-0032 TEL. 03(3874)2030

FAX. 03(3874)5280

聖天様はお釈迦様の教えに直結

住職 平田真純

当山の縁起では、今から千四百年余り前、一夜にしてこの山が盛り上がり、金龍が舞い降りてこれを祝福したとあります。またその六年後、この地域は大変な干ばつに見舞われ、十一面観音様が聖天様のお姿となって降臨され、人々を救ったと伝えられています。おめでたい時も、天災などで苦しむときも、いつも神様仏様は、私たちに寄り添っていただいているというありがたさが伝わってきます。

天災といえ、つい最近も、草津白根山の噴火とか、北陸地方の豪雪等々、予知不能の事態は次から次へと起こり、先行きの不安を感じる当事者の方々も多いことでしょう。

天災に限らず、私たちの日常には予期せぬ出来事も多く、将来を見渡せない不安は常にあると思います。当山にお参りに来られる方も、「試験に合格するかどううか」「始めた商売がうまくいくかどうか」「手術が成功するかどうか」などなど、それぞれがお持ちになっ

ている不安を聖天様に祈っておられることでしょうか。聖天様に祈願するということは、もちろんその成就を願うわけですが、得るものは必ずしも結果だけではありません。祈願することで不安が少しでもやわらぎ、本来の自分に立ち返ることができる、これが物事の成就にも一役買っていると思われれます。

お釈迦様は、真理に暗い私たちが陥る不安や苦悩は、外的な動機からおこるものではなく、自らの心から生じてくるものであるということに気付かれました。そのお釈迦様のお説きになられた教えは、仏教の一尊として聖天様はおられます。私たちが聖天様に参拝あるいは祈願するとき、お釈迦様のような揺るぎない境地とまではいかないでしょうが、自身の心の持ち方が重要であることには気付かされることでしょう。

私たちは、苦悩や不安や不満などを、人のせい、環境のせい、生まれのせいなどにしてしまいがちです。聖天様の御前でお願ひ事を祈る方は、併せて自分自身を落ち着いて見つめ直していただければと思います。あるいは、集中力を研ぎ澄ませて祈願すれば、自然とその「気付き」にたどり着くものかもしれません。

待乳山便り

節分会豆まき大法要 報告

二月三日、節分会が執り行われました。前日に雪

が降りましたが、当日は日が差し、厳しい寒さが和らいだ節分日和となりました。



午後三時、浅草寺一山出仕のもと般若心経誦誦が始まると、谷川総代の『福は内』の掛け声を合図に、およそ二十名の年男による豆撒きが始まりました。本堂や神楽殿の上から参拝者

に向けてたくさんのお菓子が威勢よく撒かれ、みなさん福を授かっていたようです。

年男御芳名（敬称略）

- 谷川智典 細川好太郎 西川晃敏 福田廣光
- 宮城久芳 橋本和夫 上嶋三千和 瀧政崇
- 神崎義己 岩崎顕悟 宮田忍 山形公二 飯塚実
- 酒井喜生 大野晃央 上嶋聖人 柴田達之
- 田中剛毅 中村和郎



お宮参り

御宝前にてお加持を授けられました。尊天様のご加護で健やかに成長されることをお祈りしております。



アモニック
アナスタシア
澤ちゃん



吉本優心ちゃん

三月御縁日大法要 行事紹介

稲荷祭大法要

三月二十七日(火) 午前十二時

講金 一、五〇〇円



旧暦初午の日に稲荷祭を執行し、ご参詣の皆様の家内安全、商売繁盛を祈念いたします。

さてお稲荷さんと言えば、誰もが社に祀られている狐の像を思い浮かべると思います。そのせいか、時々、狐けんぞく稲荷神と勘違いしている方もいますが、狐は眷属と呼ばれる神様の便りです。

稲荷神と狐が近い関係になった由来にはいくつか説があります。稲荷神は食べ物の神様である御饌神（みけつかみ）という別名を持っています。その「みけつ」が御狐（おけつね）・三狐（みけつね）に転じたことによるという説。また稲荷神は密教の茶枳だき尼天にてんと習合し、同一の神であると考えられるようになります。その際、茶枳尼天のまたがる狐が同じく稲荷神の眷属であるとなった説が有力なようです。当日は本堂左奥に鎮座しております稲荷社に沢山のお供物をお供えし供養いたします。

また講に申し込まれた方には、今年より新たに待乳山稲荷尊の開運守を頒布いたします。根付け付きの木札です。皆様揃ってご参加くださいませ。



婦人講

三月二十日(火) 午前十一時 講金一、五〇〇円

三月二十日に婦人講を執り行いたします。

婦人講は大正元年に発足しました。当時は享保時代に建てられた本堂の老朽化がひどく、その修繕のためにご婦人方が中心となって講員の勧誘が行われました。関東大震災の前には六百人を超す方が講に参加され、その際の講金で円壇や仏具を奉納されたそうです。その後も、昭和十九年には神楽殿、戦後には聖天様の御宮殿などが婦人講の講金でご奉納されました。信徒の皆様ひとりひとりの力添えがあつて、今日の待乳山があります。こうした伝統を後に繋いでいくためにも、ぜひ歴史ある当講にご参加ください。男性の方のお申し込みもお待ちしております。



安全講祈祷会 受付のご案内

四月十五日(日) 午前十一時

用紙にご氏名とご希望のお守りの項目を丸で囲み、寺務所にて受付ください。

講金 一、五〇〇円（一鉢増毎五〇〇円）

送料は十鉢毎に二〇〇円

大聖歡喜天利生記

神仏が衆生に利益を与えることを利生と呼びます。かつての当山誌『歡喜』に掲載された信仰体験談をシリーズでご紹介いたします。

対談 聖天様はこわい神様なのか ②

(歡喜第十一号 昭和四十二年発行より)

伊波信次郎・北原清至

北原 「怖い」とは現実に罰に当って怖いというのと違って、聖天様の怖さをただ人から聞いて漠然としているに過ぎないんですよ。

伊波 それはですね、信仰していて恐らく十人の内七、八人は何かお願いごとをしていると思うんです。私に言わせれば、そのお願いが叶ってその有難い感謝を持続すれば決して罰は当たらないと思う。尊天様は神様である以上、罰を当てる訳がないです。然しご自身自体が今迄こんなに参詣しているのだからと身勝手に分不相応のお願いをした結果、聖天様はなかなか聞き入れて下さらないと思うのです。

仮に私が北原さんに「こういう仕事でこうするんだが」と真面目な相談だったらお聞き入れになるでしょう。ところが、いかげんなつまらない話をもってこられては、「何だい君は」と本気にあつかわれなくなりましょう。それと殆んど同じですよ。聖天様は怖いといわれていますが、大慈大悲の仏様に説かれた聖天様が、罰を当てたり祟るようなことは恐らくないんじゃないでしょうか。

北原 然し一般の方は「信仰して途中で止めたら後々まで祟るそうだ」など漠然と思っていて、良いこと、あらたかなことを聞きもしないようです。

伊波 その話もよく聞くんです。「七代の福を一代でとる」とか。でもこれに似たことは、私は有ると思いません。

仮に五人兄弟があつて聖天様を同じように信仰しているとしたら。人間には運氣と言うものがあつて、もしその運氣の強い者と他の兄弟がお参りしするとする。同じようにご参詣していても、その者だけ強いご利益をいただくことがある。これは私も経験しております。つまり七代の運は確かに一族の中で同じ信仰をしている場合には、その中から誰か一人非常に強い力を持つている人が特に大きく福をいただく。然し他の人もそれなりに福をもらっているものであつて、決して他が悪くなるのではないのです。

北原 これは私の考えですが、今の兄弟のことでそれぞれ生れた年と月と状態でみな運勢が違つて生れたとき既に一升の器を持つて生れた者、一斗(十升)の器のある者、一石(十斗)の器を持つて生れた者、みんな違つて生れた者、だから一升の器をもって生れた人も一斗一石の器を持つて生れた者、これはもう努力だと思つては、

伊波 それはですね。運勢と信仰との関係は非常に難しい解釈だと思つては。神仏を信仰しなくても運勢の強い人は運氣にのつて非常に伸びていきます。然し運氣のない人は授からない。後は努力次第でしょう。

でもこういうことが言えるのではないですか。先程も申しましたが、もし十のことを運営出来る人が聖天様を一生懸命信仰して、百のことをお願いしても百は下さらないと思つては。そうすると不満が出ますが、なぜ百を下さらないかといえば、十しか運営出来ないのに急に百の力を与えても、それはむしろ身の破滅になるか、又は良い結果は得られないと思つては。ものには段階と言う事があります。此の場合は十の人は二十、その次は三十、次に四十という段階を踏んでゆくならばそれを運用することも出来るし、又聖天様はそういうお願いならばずっと案にお聞き届け下さると思つては。

然し凡人ですから自分の運営できる以上のことを確かにお願いします。又尊天様の思召しで叶えて下さる場合があります。然しそれは聖天様が非常にお力を貸して下さったのでしよう。そこでお願いした者が満足していればいいのですが、又何年かすると必ずそれ以上お願いをとなす。しまいに平たく言えば聖天様はあきれかえつてしまふわけです。このような経験を、よく「聖天様はしつぺ返しをされる」と伝えられております。これは確かに解釈のしようによつてはございます。矢張り人間の欲には限度が大切です。(次号へ続く)



二月行事予定

御縁日大法要

婦人講大法要 三月二十日(火) 午前十二時 講金 一、五〇〇円也

当山の興隆に貢献されてきた伝統ある講です。皆様の家内安全、身体健全を祈願いたします。

稲荷祭 三月二十七日(火) 午前十一時 講金 一、五〇〇円也

旧暦の初午の日に、各家の除災招福、家内安全、商売繁盛をお祈りいたします。

朝まいり会 三月一日〜七日 午前八時から八時半 会費 五〇〇円也

都合のよい日に、ご参加くださっても結構です。最終日には、読誦終了後に食事作法を行います。

日曜勤行 三月十一日(日) 午前九時 参加費 無料

初心の方も気軽にご参加いただけるおつとめの会です。

写経の会 三月十一日(日) 午前十時/午後一時 会費 五〇〇円也

心を落ち着かせて写経することで、日常を離れ、自分を見つめ直ししましょう。

坐禅の会 三月二十四日(土) 午後五時〜七時 定員三十名 参加費 五〇〇円也

本堂にて坐禅を行います。定員になり次第、募集を締め切らせていただきます。

合同大般若法要 三月二十五日(日) 午前十一時 法要料 五、〇〇〇円也

心願が成就し、より一層の御加護を頂くために、皆さんと一緒に上げる御礼の法要です。

四月の行事 御縁日大法要

安全講祈禱会 四月十五日(日) 午前十一時 講金 一、五〇〇円也 (一鉢増毎五百円)

皆様の諸事の安全を祈願し、パウチ加工したお守りをお授けいたします。

祈禱のご案内

聖天様独特の供養法である浴油供は、密教の中で最も深秘の法とされています。この供養法は聖天様のお力がより一層高められ、私どもが不可能と思われるような願い事でも、尊天様の不思議方便のお働きを得て、必ず成就させて頂けるのであります。

当山ではこの浴油祈禱を、毎朝開堂と同時に厳修しております。寺務所にて受け付けておりますので、お名前とお願いの内容、祈禱期間をお伝え下さい。

またご遠方の方やお急ぎの方は、お電話やお手紙でも受け付けております。どうぞお申込みください。

祈禱料

別座祈禱 壱万円(一週間)
浴油祈禱 三千五百円(一週間)
華水供 五百円(一日)

法要案内

当山では予約にて法要を行っております。寺務所にてお問い合わせください。

百味供養 法要料 八万円

沢山のお供物をお供えし、出仕の僧侶が声明をお唱えすることで、尊天さまに御礼の供養をいたします。

大般若法要 法要料 五万円

所願成就御礼の法要として、大般若経六百巻を転読いたします。

自動車加持 法要料 壱万円

当院にてお車のお加持をいたします。当日はお車にてお越しください。

皆様からのご質問、お知りになりたいことを受け付けております。ご意見やご質問は ityou@matsuchiyama.jp までメールをお送りください。